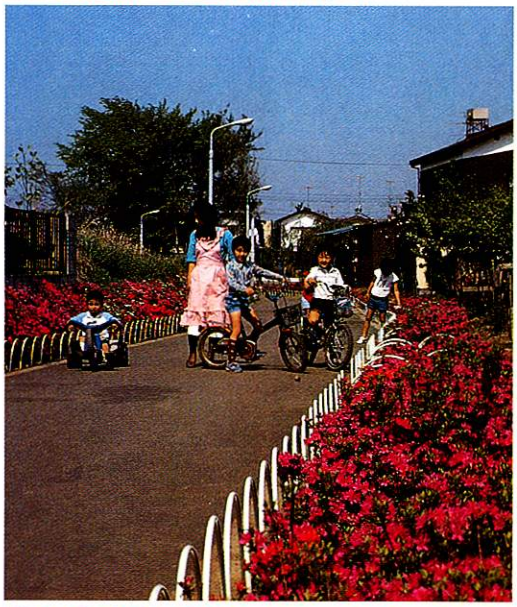
WALKING FUSSA

ふっさ 歴史と自然・施設 散歩

美しい水のバロメーターカワセミ（多摩川にて）

つつじの名所、殿ヶ谷分水跡の遊歩道



俳人、森田友昇の「友昇塚」

福生に伝わる

⊙天狗と百姓（又は天狗の畑おこし）

天狗伝説は各地にあり、天狗は修験者の大先達である宗匠といわれています。福生に残っている天狗話では新堀橋のそばに高い杉の木があり、そこに天狗がいて、通る人をおどかしたといいます。

ある日天狗は、農民が一鍬一鍬畑を耕しているのをみて、「人間はどうしてあんな馬鹿な真似をするのだろう、俺なら一度にあの四角なもの（畑）を持ち上げてひっくり返してみせるのに」と思いました。そこで夜おそく畑へ行って畑の畦を持ち上げてみましたが動きません。何回もやってついに夜明けになってしまいました。結局失敗に終り、天狗はあきらめて山に帰ってしまいました。つくづくと人間の仕事ぶりに感心して引きあげていきましたとさ。

⊙疫病神や鬼をおいはらう（事八日）

2月8日は「事八日」といい、夜、鬼がきて履物に判を押すというので、履物を全部家の中へ入れておく習慣がありました。戸口でネギ、トウガラシなどをいぶし、また竹製のザル（メカイ）を1つ軒下につるします。

同じように12月8日の「事八日」には鬼や疫病神がこないようにと目かご（メケエ）、ヌキナシといわれるかごを竹竿の先につけて軒先に立てたり、いろりでネギやトウガラシを燃やした家もありました。

この風習の由来は、昔支那へ竹細工を習いにいった者が帰国の船で疫病神と行き合ったところ、これから日本へ行って困らせてやる、という。そこで男は、自分の家にきてくれるな、と頼んだら、目印をつくっておけば行かないと約束してくれた。以来目印に竹細工をつるすことになったということです。

⊙牛浜の合戦

時は正平7年（1352）閏2月。足利尊氏の反乱で世は争乱が相次ぎ、南北二朝の対立が続いていました。征夷大将軍宗良親王を総帥とする連合軍と足利尊氏との一大会戦がここ武蔵野原で行なわれました。新田義興・義宗らは10万の兵を率いて上野から武蔵へ侵入、これを聞いた足利尊氏は直ちに手兵をまとめて16日に武蔵へ立ち向かい、20日の合戦となりました。

戦いは尊氏の敗北となり、勝ちに乗じた義宗は尊氏の首を討取ろうと他の軍兵には目もむけず尊氏をねらい、そのため尊氏は小手指ヶ原から石浜まで46里を敗走し、石浜で切腹しようとしましたが、これを近習の侍二十余人が助け出しました。すでに日が西に没していたため、義宗勢は歯ぎしりして引返していきました。

尊氏は石浜で兵を整えると、府中、笛吹峠へのがれました。その後尊氏は関東一円を治め、京都へ帰っていきました。

※『太平記』には「石浜」と書かれていますがこれは「牛浜」の誤りで尊氏が逃れた地区は、現在の牛浜から多摩川を渡り対岸の二宮あたりではないかと想像されます。

⊙鷹場

南部落に鷹場塚という地名がありますが、この辺一帯は江戸時代に尾州大納言家の鷹場があったところ。鷹場は70ヵ村にもわたる広大な地域で江戸幕府が倒れる慶応2年まで存在していました。鷹場があると鷹場役人が来たり管理規則（鷹場法度）があったりで、村民にさまざまな影響を与えました。

鷹場法度は、①鷹場内で殺生しない②飼鳥したり巣子をとってはいけない③かかしを勝手に立ててはいけない④鷹場見回り役人がきたら人馬を滞りなく調達し、脇道まで茨、逆茂木等をとり、道や橋は丈夫に直すこと、逗留中は犬猫をつなぐこと⑤鉄砲を勝手に持ったり撃ってはいけない⑥いのしし、鹿、うさぎ等も勝手に捕えてはいけない⑦境杭を大切にし破損の場合は修復する、等々。

この他にもいろいろあり、伝馬役から鷹の餌用の赤蛙の調達まで村民にかかる負担は相当なものでした。

民話・風習

⊙力石

清厳院のところに大きな石が積んであります。これは昔から若い衆が力くらべするとき、ここまであがったとためすのに使ったといわれています。現代っ子たち、どこまで持ち上がるか一度力だめししてみては？

⊙馬坂・牛坂

中福生には馬坂、牛坂とよばれた坂があります。その昔、武田氏がタカツキ城の北条氏照を攻めたとき、馬で攻めた道を馬坂、また牛で攻めたところを牛坂と言うようになったといわれています。牛攻めは、牛の尾にタイマツをつけたり、角に日本刀をつけて攻めたと語り伝えられています。

⊙長者堀

福生市内、熊川地区に長者伝説が残されています。昔、武蔵野・松原に大野長者という者がいました。多摩川から水を引いて屋敷の周りに堀をつくっていたそうです。

これは『神光仏言夢物語』という江戸時代の古記録にも書かれています。ほかに『新編武蔵風土記稿』にも「村の西北の方なる田圃の中に往古何人のここに居住せしにや」と記されています。

⊙長沢遺跡のなぞ

福生駅西口、福生消防署周辺約4000㎡にわたって広がる長沢遺跡は、縄文時代中期のもので、多摩川中流域における大規模な集落跡として注目されています。

昭和45年以降７回にわたって調査が行なわれ、膨大な数の石器や土器が出土しています。

しかし中にどうしても解明できない不思議な遺構があります。人頭大の石を敷石上にならべたものですが、時代を知る手がかりがないのです。後世の寺院跡ではないかとも考えられますが、大規模なものだけに記録に全く残っていないというのは不思議です。

⊙玉川上水の開削

江戸の住民に飲料水を供給した玉川上水は、今から約330年前の江戸初期に玉川庄右衛門、清右衛門兄弟によって開削が行なわれたといわれています。玉川上水の拝島駅付近の西側一帯を「水喰土（くらいど）」といいますが、これは福生から掘りはじめて水を流したところ、ここで水がすべて地中にのみ込まれてしまったために生れた地名だと語り伝えられています。今も残る空堀はその名残だとか。

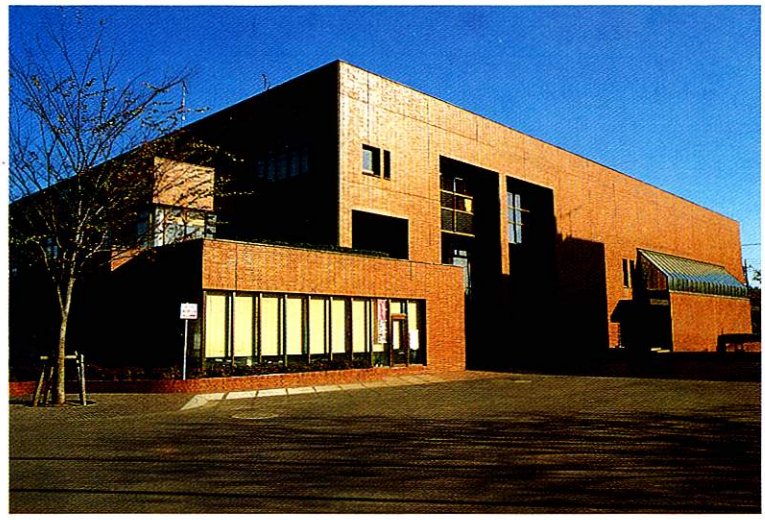
⊙地名のおこりは？

福生（ふっさ）という地名には諸説がありますが、その一つは「総生（ふさう）」説。総（ふさ）は麻のことで、総生は麻が広々とした原野で栽培されていることを意味しています。

次が地質学的にみて陸丘を意味する「阜沙（ふさ）」説。さらにアイヌ語でフッチャ（湖口）、ブッセ（湧水）、フッサ（水で清めるみそぎ）等の意味。いずれも水に関係した言葉だそうです。

●福生市役所

まだ福生町だった昭和39年１月に建設した建物で、当時としては大変画期的な建造物と評判でした。現在ではかなり手狭になっていますが、１階に配された市民課窓口やロビーなどは庁舎建設のモデル的存在で、現在でも古さを感じません。（本町５　☎51―1511）



●市民会館・公民館

52年６月オープンした市民文化活動の拠点。大小のホール、リハーサル室、会議室、調理室、視聴覚室、美術工作室、児童室、展示室などがあり、からだの不自由な人にも利用できるよう工夫してあります。大ホールは、あらゆる舞台装置施設を完備した1210人収容のホールで、隣には260人収容の小ホールもあります。（福生2455　☎52―1711）

●市民体育館

48年４月にオープンした市民スポーツの拠点。主競技場（1143m²）を中心に会議室、トレーニングルーム、シャワー室、柔剣道場などがあります。また、ここには福生市教育委員会事務局があります。

（北田園２－８　☎52―5511）

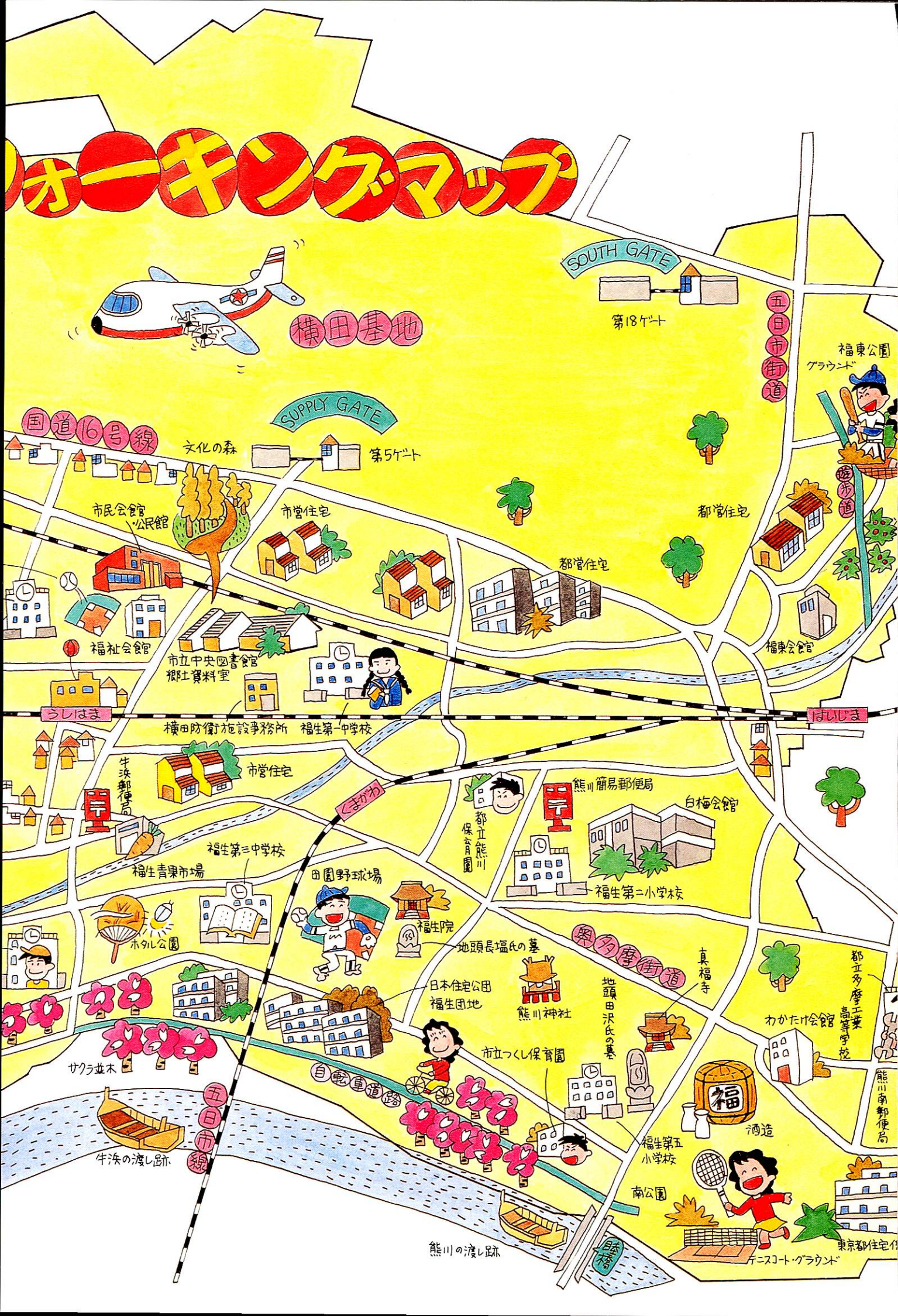
●中央図書館・郷土資料室

55年４月オープン。延床面積3125m²のうち445m²が郷土資料室になっています。蔵書は現在15万冊で、貸出し業務はすべてコンピュータ化されています。郷土資料室では、ふるさとの成り立ち、歩み、自然等を紹介するとともに、特別展示会や催事を行なっています。

（熊川850―１　☎53―3111）

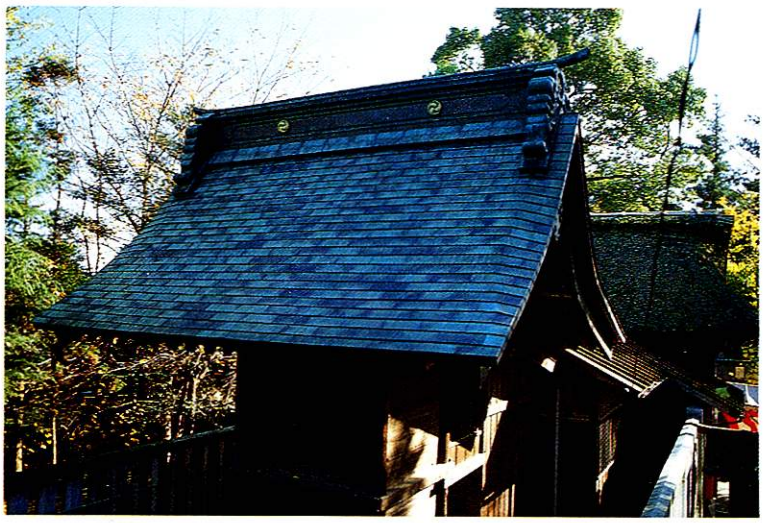
MAIN GATE
メインゲート
ふっさ
目白第二病院
武蔵野台テニスコート
FUSSA GATE
第2ゲート
ひがしふっさ
工業団地
松林会館
水道事務所
福生第二中学校
福生保健所
八高線
都営住宅
加美平野球場
東京法務局福生出張所
かえで会館
福生第六小学校
市営住宅
市営福生野球場
福生病院
市立すみれ保育園
大聖病院
福生第三小学校
加美郵便局
福生消防署
ふっさ
青梅線
林桑会館
福生第一小学校
福生市商工会館
福生警察署
横田家
わかぎり会館
都立福生保育園
高崎翁の碑
神明社
福生郵便局
市役所
福生電報電話局
福生第四小学校
長沢遺跡
奥多摩街道
玉川上水
新東京百景・新堀橋付近の玉川上水
清岩院
友昇筆塚
福生第七小学校
友昇筆塚
酒造
都立福生高等学校
建設省多摩川上流出張所
かた坂公園
柳山公園
市民体育館
健康センター
長徳寺
自転車道路
東京都西多摩建設事務所福生私川工区
福生の渡し跡
市営プール
永田橋
多摩川
多摩橋

ウォーキングマップ


横田基地
SOUTH GATE
第18ゲート
五日市街道
福東公園
グラウンド
遊歩道
SUPPLY GATE
第5ゲート
国道16号線
文化の森
市民会館
公民館
市営住宅
都営住宅
都営住宅
福祉会館
市立中央図書館
郷土資料室
福東会館
うしはま
はいじま
横田防衛施設事務所
福生第一中学校
牛浜郵便局
市営住宅
くまがわ
熊川簡易郵便局
白梅会館
都立熊川保育園
福生第二小学校
福生第三中学校
福生青果市場
田園野球場
福生院
ホタル公園
地頭長塩氏の墓
奥多摩街道
真福寺
日本住宅公団
福生団地
熊川神社
地頭田沢氏の墓
都立多摩工業高等学校
わかたけ会館
サクラ並木
自転車道路
市立つくし保育園
五日市線
牛浜の渡し跡
酒造
熊川南郵便局
福生第五小学校
南公園
熊川の渡し跡
日橋
テニスコート・グラウンド
東京都住宅

●熊川神社本殿

現存している5枚の棟札から、慶長2年(1597)に再建され、正保3年(1646)に修繕が行なわれ、その後も修理をくり返したことが記されています。構造から見て室町時代のもので、市内に現存する最古の木造建物。拝殿、幣殿、本殿から成っています。東京都有形文化財に指定されています。(熊川659)

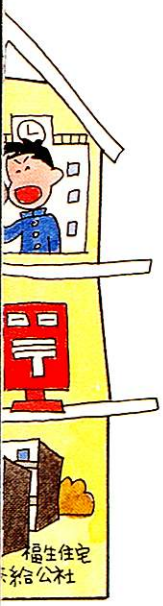


●地頭田沢氏の墓

江戸時代、内出地区は旗本田沢氏の知行地で、真福寺にその墓があります。碑銘は風化して読めませんが、真福寺は戦国時代、後北条氏の庇護の下、大きな勢力を有した真言宗の寺院です。(真福寺　熊川309)

●長沢遺跡の発掘

昭和45年以来、7度にわたる調査で縄文中期(約4000年前)の住居跡や土器類が多数発掘されています。住居跡は9ヵ所、土器は30種、石斧1500点が出土し、多摩川中流域の大規模な集落跡として注目されています。

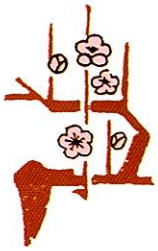


●多摩川緑地福生かに坂公園

多摩川河川敷の自然を生かしてつくった多摩川緑地福生かに坂公園は、面積13281.83㎡と大きく、芝生の多い公園です。公園にはサイクリング道路やブランコなどの遊具もあり、また四季折り折りの野鳥や草花を見ることができます。(福生1185—15)

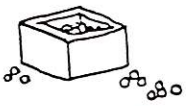
ふっさ歳時記

1月



初詣、獅子舞
七草ガユ、消防団出初め式
成人式
ニューイヤーコンサート

2月



節分
スキー教室
スキー大会
初午（はつうま）

3月

ひなまつり（桃の節句）
テニス教室
彼岸
小中学校卒業式

4月

桜まつり
小中学校入学式
花まつり、神明社春まつり
熊川神社春まつり

5月

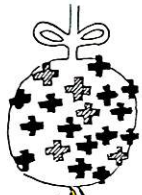
交通安全フェスティバル
こどもの日（端午の節句）
春の朝市
多摩川アユ解禁

6月

ほたる祭り
落語鑑賞会
主婦と老人の運動会

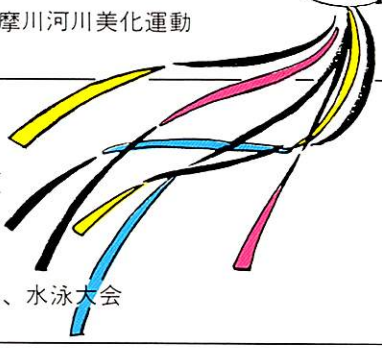
7月

市制記念日、市営プールオープン、日米親善友好祭（横田基地カーニバル）、夏まつり（天王様のまつり）、七夕まつり、公民館の集い、多摩川河川美化運動



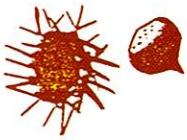
8月

ふっさ七夕まつり、夏休み自然教室、ジュニアサマースポーツスクール、福生市防災訓練、水泳大会



9月

八朔祭（熊川神社秋まつり）
東京都防災訓練
福生市敬老大会
十五夜（お月見）、彼岸

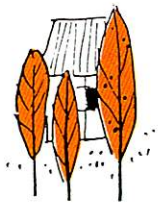


10月

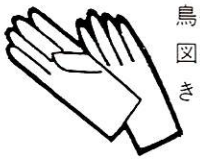
市民総合体育大会、市民ハイキング、老人運動会、老人の芸能大会、市民総合相談、秋の朝市、落花生の掘り取り

11月

市民文化祭
七五三
福生ロードレース大会
福生市火災防禦訓練



12月



福祉バザー、スケート教室、冬の野鳥観察会、ポピュラーコンサート、図書館のクリスマス会、冬至、餅つき、年の市、大晦日、除夜の鐘

福生市の歌

設楽千代子　作詞
丘　灯至夫　補作
團　伊玖磨　作曲

1．緑さわやか　武蔵野の
夢もゆたかに　弾む町
友と組む手が　ぬくもりが
虹の未来を　築きます
ああ　福生
わが町　福生　ああ福生　いつまでも

2．光溢(あふ)れる　この町の
歩みいくとせ　今日もまた
ちから寄せあい　睦(むつ)みあい
守るしあわせ　すくすくと
ああ　福生
わが町　福生　ああ福生　いつまでも

3．花の香りや　七夕や
多摩の流れに　飛ぶ螢
生きる喜び　抱きしめて
清く　明るく　たくましく
ああ　福生
わが町　福生　ああ福生　いつまでも

市民憲章

美しく連なる山なみを望み、しずかに流れる多摩川のもと、雑木林と桑畑の武蔵野台地にひらけた福生市は、多くの人たちのたゆみない努力によって発展をつづけています。

私たち市民は、この地をふるさととして愛し、平和を願い、いきいきとした市民のまちをつくるため、ここに市民憲章を定めます。

1.私たちは　健康な心と体をつくり　充実(じゅうじつ)した豊かな日々をおくりましょう。

1.私たちは　老人を敬(うやま)い　子供の健(すこ)やかな成長につとめ　明るい家庭をつくりましょう。

1.私たちは　自然をたいせつにし　花や木を育て　美しい緑のまちをつくりましょう。

1.私たちは　教養(きょうよう)を高め　情操(じょうそう)を養い　文化の薫(かお)るまちをつくりましょう。

1.私たちは　たがいに親しみ　助けあい　みんなが幸せになるまちをつくりましょう。

●発行
東京都福生市
●発行日
昭和59年1月
●編集
福生市役所企画財政部企画財政課